

思川

乙女中学校

三年

田中

温音

学校に行く朝、僕は七時五分に家を出る。自転車をしていで三分位すると、思川の土手に出る。僕はいつも自然と思川に目を向けてしまふ。空気が澄んでいゝ朝だから、土手がら見える思川は、水面がキラキラと輝いていゝ。いつ見ても飽きない、僕の大好きな景色だ。その景色も季節によつて姿を変える。

春には、思川をはさんだ向こう側の土手の上にピンク色の桜が咲き、土手沿いには黄色い菜の花が咲きほこり土手沿いを埋め尽くす。晴れた日には青空も加わつて、とてもきれいな景色になる。一日の始まりに心が躍らされる様なすばらしい景色。

夏には、思川の川幅も細くなり、川原が大きく顔を出す。土手には、僕の首くらいまで草が生い茂る。草むらの向こうに、細くゆるやかに流れる思川が見えると、東の間の涼しさを感じる。

そして、僕が一番好きな秋になると、土手の周りの田んぼに、トンボが飛び始め、思川の水で育った稲穂が風に揺れて波を打つ。僕は思川を横目に、その思川で大きく育った稲穂に向かって土手の坂道を降りて行く。稲穂に囲まれた一本道を自転車で通るのが大好きだ。

僕は小学校六年生の時に今の家に引っ越して来て、この景色を見ながら三年半、通学している。来年の春には高校生になり、この通学路を通る事はないだろう。そう思うと少しさみしい気持ちになる。

土手から見える思川。きつと大人になり、昔を懐かしむ時、僕の頭の中には、この景色達が浮かんでくるのだろうと思う。僕の朝を元気にしてくれろすばらしい景色を僕はずと忘れないだろう。